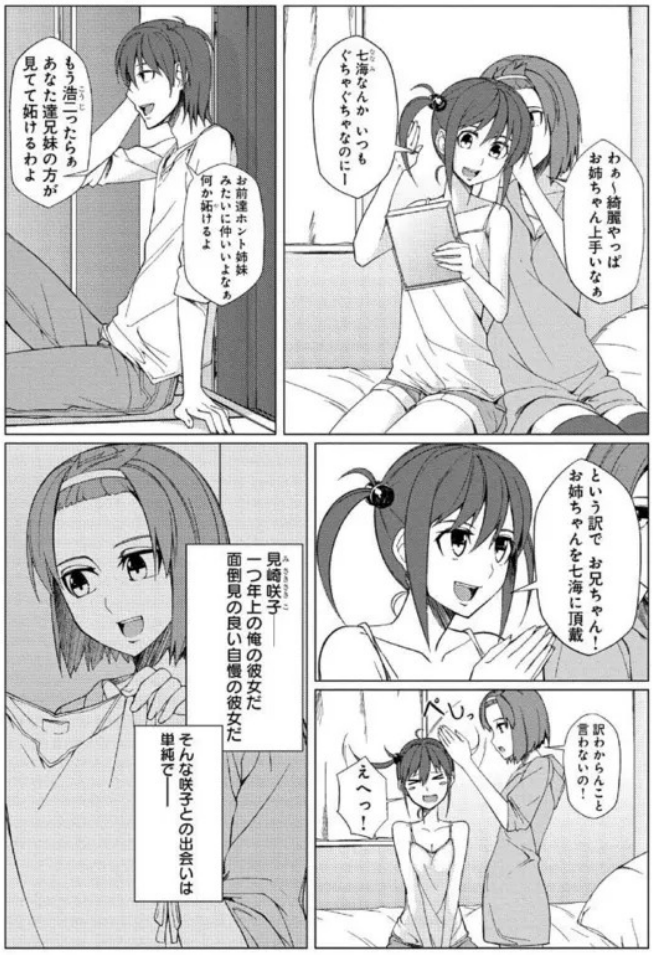
ニ♂兄の彼女を
寝取ったのはボク♂の妹!?
ちかひー

筆記用具を忘れた咲子にペンを貸したのが始まりだ——
一目見ただけで良い女性だと分かった
ただ少し書けている部分があるみたいで貸したペンをパクられた
次の週にすぐさま俺の元に謝りに来てそれがきっかけで友人になった
咲子は俺の弱い部分を全て受け入れてくれた
そしてなにより
コンプレックスだった性器のサイズも受け入れてくれた
咲子は想像通りの子で息も合い俺達はすぐに恋に落ちた——
咲子はサイズで優劣を決める女性ではないと確信したし
「凄い気持ちよかった」という彼女の言葉に俺は救われた
そして——


わぁ～綺麗やっぱお姉ちゃん上手いなぁ
七海なんかいつもぐちゃぐちゃなのにー
お前達ホント姉妹みたいに仲いいよなぁ何か妬けるよ
もう浩二ったらぁあなた達兄妹の方が見てて妬けるわよ
という訳でお兄ちゃんを七海に頂戴！
訳わからんこと言わないの！
ぺしっ
えへっ！
見崎咲子——一つ年上の俺の彼女だ面倒見の良い自慢の彼女だ
そんな咲子との出会いは単純で——

七海さぁ
お姉ちゃんと……
セックスしたいなぁ～
キュッ
……
えっ？
セックスって…
大体女の子同士だし
その…アレも
付いてないでしょ？
いいでしょ～
七海さぁまだ一回もエッチ
したことないのー
それってチ●コのこと？
それなら七海持ってるよ
ちょっと何してるの？
冗談キツいなぁ～

あれぇ 七海がふた●り
だって知らないの？
えっ 何これ？
つっ…作り物？
やだ…何この大きさ…
浩二と全然違う…
お姉ちゃん！
えっ？
痛いっ！
絶対に気持ち良くして
あげるから安心してね
お姉ちゃん♪

気持ち良くって…
簡単なことじゃないのよ
初めてだけど自信ある
から大丈夫だよぉ
ぎゅっ
その時 俺は七海を
止めなかった
むしろ――
俺は興奮していた
七海のチ●コで
咲子がどんな
反応をするのか
見たかった
咲子よりも七海の方が
ずっと力が強く
抵抗の余地はなかった
やめてよっ
七海ちゃん！
大丈夫だよ
お姉ちゃん
大丈夫じゃないわよ
服返してよ！
年上である咲子が
為すすべもなく身ぐるみ
剥がされる姿に興奮した
んっ…これホントに入るの？
穴小さいんだけど
クニュ
クニュ
あっ入った入った！
そっか処女じゃないもんね
グッ…

んっ…おっきい…
こんなの…入らないわよ
ハァ
ハァ
あれ？もう入らないの？
処女じゃないのにキツぅ
ちょっと押し込むから
我慢してね
スー
コンッ
んあぁぁあっ！
ズンッ
無理かぁ

……
お兄ちゃん
これどうやって全部入れるの？
あぁだめぇ
奥まで入れないでそこぉ…やめてよぉ
あれ？もしかして奥ツンツンされるの気持ちいいの？
こんなの…気持ち良くないわよ！もう抜いてよ七海ちゃん！
そんな…ただ突くだけで気持ちいい訳ないじゃない！
へぇそうなんだ
だめっ全然違うこんなの…こんなの…

もう無理…凄い…我慢できない…
気持ちいい！
あぁっ！奥凄いぃ！もっとぉもっとぉ
あぁだめぇ全然違う！おっきい！おっきいのぉ奥にっ奥に届いてるっ！
あぁイク！
イクっ！だめっあっ
ああああぁぁぁ！そこぉぉ！
もうだめぇぇイクっ！
えっ何？もうイクの？早くない？

ビクンッ
イクうううう！
あれれ？
本当にイっちゃったの？
七海まだイってないんだけど
な～んだ
セックスって簡単じゃん
奥突くだけでイクんだもん
ホント拍子抜けだなぁ

ていうかキツイし痛いし
あんまり気持ちよくなかったなぁ
でもチ●コ小さい人なら
気持ちいいのかもね
お兄ちゃんみたいな
咲子ぉ！
バッ
おい！
大丈夫か？
なぁ大丈夫？
咲…
しるっ
バッ
……!?
凄い…
はァ
はァ
はァ
はァ
おっきいの…
好き…

あれから二週間後
咲子の誕生日——
会うのは
あの日以来だ
あの後はショックで
咲子に連絡すら
取れなかった
でも今日で
立ち直れる
全て元通りだ
咲子との愛は
咲子との一年の思い出は
あの程度では消えないから——
寝てんのか？
合鍵あるし
入るか
ソーッ
靴？咲子はいつも
片付けてるよな…
友達でも
来てんのかな？
咲子！
ひっ…久しぶり！
カチャ

またイクの？
さっきイったばっかじゃん
ホント奥が好きなんだね
イクっ
イクっ
分かったよイっていいよ
ほらココでしょ？
大きくないと届かない
ココだよね！
あぁあっ！イクううう！
ビクンッ

あっお兄ちゃん
ブルン
浩二…
ガーン
凄い…
もっとぉ…
咲子…なんでこんなことしてるんだよ…
だってぇ…
七海ちゃんのチ●コの方が太くて長くて カリも高くて…奥突かれて初めてイったの…
中イキって凄いんだよぉ…この気持ち良さに比べたら浩二との思い出なんてゴミ…なの

へーあれ初めてだったんだふふ 褒めてくれたご褒美にもう一回シてあげるね
ガシ
ズズズ
ああ！ふっといのきたぁそこぉ…あぁ奥好きぃ！
おっきいチ●コ凄い！大好きぃ！
あぁだめ力入んない…
ビクッ
咲子！
言ってくれたじゃないか！そんなこと関係ないって俺だから気持ちいいって！
ほら お兄ちゃんが何か言ってるよ
咲子！

あっイク
もっとぉ
大きさが関係ない
訳ないでしょ
長くて太い方が
気持ちいいに
決まってるじゃない
ベロ
入ってるかどうかも分からない
浩二の粗●ンで感じた振りするの
どれだけ大変だったと思ってるの？
ねぇバカなの？
返事ぐらい
してあげたら？
はっはいぃ
前戯もしてくれないし…
何から何まで私に押し付けて
粗●ンの癖に傲慢なのよ
……
そういえばこれ
知ってるかなぁ
お兄ちゃん前さぁ…
咲子お姉ちゃんは七海と
違ってだらしなくないって
言ってたけど——
お姉ちゃんってね
ちょっと奥突いて気持ち良く
してあげるとね——

よだれと鼻水が
止まらなくなる
だらしない女なんだよ
知らなかったの？
一年も
付き合ったのに
そっかぁチ●コ小さいもんね
奥まで届く訳ないよね
あはは ごめんねお兄ちゃん
それ以来——
俺は咲子に別れを
告げることもなく
ずっと会っていない
ただ七海が
ぐっと大人っぽくなり
毎日のように咲子の家に
泊まりに行っている